

流れのほとりて

「憩いの流れのほとりて」

JEA 女性委員長 丸山 園子

「そのとき、主はギデオンに仰せられた。『あなたといっしょにいる民は多すぎるから、わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。イスラエルが『自分の手で自分を救った。』と言って、わたしに向かって誇るといけないから。』(士師記 7:2)

日本のクリスチャン人口は、なかなか伸びません。家庭の中でも、職場でも、クリスチャンは自分だけ。多数決でのまれていってしまうのでは、と思えるような国家体制も垣間見える昨今。マイノリティ・コンプレックスで、意気消沈していませんか。

ミデヤン人との戦いに備えて、ギデオンの招集に答えた民は 33,000 人。対するミデヤン人は、135,000 人。20 パーセントの戦力です。しかし、神さまは、「多すぎる」とおっしゃいました。恐れのある者は、帰されました。残った民は、ミデヤン陣営に対して、たったの 6 パーセント。それでも、

主は言われました。「民はまだ多すぎる。彼らを連れて水のところに下って行け」。そして、ハロデの泉、流れのほとりて、主の選別がなされました。主の戦いのために残されたのは、口に手を当てて水をなめた 300 人。ひぎをついて飲むでは、油断大敵、という 300 人。なんと、0.2 パーセント！あまりに、微力。いいえ、主の戦いは、主に従う信仰者、その備えある人で十分なのです。

この 300 人が、ミデヤン人の戦いで勝利しました。彼らが用いたのは、角笛とからつぼとたいまつ。そして、「主の剣。ギデオンの剣」と叫んだこと。ミデヤン人陣営は、この騒ぎに同士討ちを始めたのでした。主がそうされました。人間の人数や力は、問題ではありません。主の戦いは、主が勝利を与えてくださるのです。

憩いの流れのほとりて、主の戦いの備えが問われます。恐れはありませんか？神のすべての武器(エペソ 6:10-18)を、いつも身につけていますか？



「神の恵みの計画に触れる喜び」

私はこの春から JEA 女性委員会に加わらせていただきました。これまで、教会を超えたこのような活動に参加する機会は多くありませんでしたが、委員長始めご奉仕を続けておられる先生方、姉妹方が温かく迎えてくださり、新しい恵まれた信仰のお交わりを与えられて感謝しております。

中学生の時に、初めて友人に誘われて出席した救世軍のクリスマス会、その中で最も驚いたのは「祈り」でした。それまで信仰に全く関わりのないところで育った私にとって、そのように語りかけることのできる「相手」を考えるのは初めての経験でした。神様は恵み深く、そのような何も知らないものを導いてくださり、イエス様を信じ、そのお働きをこんなに近くで見せていただけたところにおいでくださいました。神様に語りかけ、聖書のみ言葉を通して神様に聴く者にいただきました。本当に不思議なことだと思います。

「わたしは、あなたたちのために立てた計画を良く心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」(エレミヤ 29:11)

このみ言葉は、献身の時においても、その歩みの中で元気な時にも、厳しさを覚える時にも与えられたものです。神様のご計画、それは少々想像力をたくましくしても、思い切り夢を見ても追いつかない程、恵みに満ちたものであると、ますます感じるこの頃です。

女性委員会の中で、さらに学ばせていただき、より多くの、より広い神様の恵みのご計画に触れる機会が与えられていることを心から感謝いたします。



徳永由美

「クリスチャン女性との出会い」

今から 50 数年前の一人のクリスチャン女性との出会い・・・これが私の家族に大きな変化をもたらしました。私が 1 歳の時です。戦争で夫をなし二人のお嬢さんを懸命に育てながらも、信仰によって明るく輝いておられた方でした。やがてその信仰がご近所の方々に、私の家族へと伝えられました。支部の教会学校も活発になり、近隣の方々と連れ立って礼拝に通うまでになりました。彼女はすでに天に帰されましたが、その信仰は子どもたちへと引き継がれ今日に至っています。

私は昨年春から JEA 女性委員会に加わらせていただきました。実は委員会の活動内容も、自分が何をすればよいのかもわからず、お受けしてしまいました。しかし会合を重ねていく中で、ふと思い出したのがこのクリスチャン女性のことでした。彼女は牧師でも宣教師でもありませんでした。決して特別な方ではありませんでしたが、イエス・キリストという最大の賜物にまずご自分が生かされ、そして多くの人も生かされたのでした。自分ができることを真実に主の前に果たしていくこと。それぞれに与えられた賜物を生かしてそれぞれの立場で主に仕えていくこと。それが実はもともと偉大な働きなのかもしれないと、彼女の生涯から教えられます。

クリスチャン女性たちが与えられた賜物を最大限に用いて、輝いて主に仕えていくためにはどうしたらよいのか。委員の方々から多くを学びながら取り組ませていただいたと願っています。それはやがて、多くの割合を女性が占める教会の力となり祝福につながることを信じます。

「いのちのこばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝かめです」(ピリピ 2 章 16 節)



梅田登志枝

女性の学び『性差によるのか賜物によるのか』No.6 ~パウロの教え

○パウロの教え

ー男女のパートナーシップ

1. 英語訳の皮肉

パウロはあるギリシャ語を使うのを避けて、注意深く別のことばを選びました。しかし、このことばの英語訳は、性の平等性を求める明確なメッセージを伝える代わりに、女性蔑視を裏付ける権威の主要な基盤になってしまうという皮肉なものでした。

この伝統的な男性優位の教えには、例えば、パウロは一貫性が無かった、混乱していた、当時の社会構造を崩さないようにと福音を妥協した、公の場では堅い線を出したが、私生活においては、自身の女性に対する嫌悪をあらわにした、などと様々な説明が加えられてきました。

しかし、パウロは女性が奉仕することの価値を目の当たりにした一世紀のユダヤ人パリサイ人であり、それが福音を危険にさらす特殊な状況

においてのみ(1テモテ 2:8-15) 反対をしたのです。彼は人種、性別、階級の垣根はキリストに在ってすべて壊されたと主張しました(ガラテヤ 3:27-29)。



2. 男女のパートナーシップ

コリント人への手紙第一 7:4 には、夫と妻が自分たちに関わる決断を夫婦で共に下す例が挙げられています。これは結婚生活における権威について

の革新的な教えです。

これは、難局に直面したとき、必ず、夫婦のうちの一人が決断しなければならないという考え方を否定するものです。もし、パウロが男女の最も親密な関係において、同意が存在し得ると教えたのであれば、決断はパートナーシップであって、上下関係ではないという考え方を強調していることとなります。

3. 「頭」の意味とは何か。

「頭」を意味するギリシャ語ケファレー(1コリント 11:2-16)が権威を示唆するのか、それとも「源」を指すのかは釈義の問題に関わってきます。

ギルバート・ビレズィキアンは、ケファレーはいつも「創造する、養育する、そして代表するという領域で体に仕えるという意図で」使われていると主張します。

《サンデーランチ》

八木橋 みどり

みなさんの家族のイメージは何でしょう。食いしん坊のせいか、私にとっての家族像はいつも食卓を囲んで家族が集まっている風景です。

聖日に教会でいただく昼食は、とても家族的な営み。神の家族を見える形で経験できる貴重なひとときではないでしょうか。実際教会に初めて来られた方には、大家族の食卓のような教会の昼食が何より印象深いメッセージになることもあるようです(礼拝説教はもちろん大事ですが・・・!)。

さて、大事なサンデーランチは供される食べ物も美味しければますます結構です。とはいえ教会でたくさんの方が一緒にいただくという

と制限があることも事実です。私の場合、自転車で運べること、冷めても美味しいこと、礼拝に遅れないことが条件です。そこで、ポットラックにも向く「簡単炊き込み御飯」を紹介します。

●材料 (5~6人分)

お米4合 市販の炊き込み御飯の具 (3合分) 剥き甘栗 (130g)

追加の具 (ごぼう 1/2 本 にんじん 1/2 本 油揚げ一枚)

醤油 大さじ2杯 砂糖 小さじ1杯

●作り方 できれば前夜までに追加の具を金平ゴボウ風の味付けで煮ておく。追加の具は冷凍保存しておいてもOK。お米をとぎ、4合分の水加減をし、甘栗、追加の具の水気を切ったもの、調味料を入れてふつ々に炊きます。圧力鍋を使えば沸騰5分後は蒸らしておけば出来上がりです。



《いのちのパン》
ひとみのように
高橋 芳江

「主は荒野で、獣のほえる荒地で彼を見つけ、これをいだき、世話をしてお自分のひとみのように、これを守られた。」(申命記三二・一〇)

瞳は周囲を見て知識を得、感動し、人の愛を感じる。同時にその人の心を映し出す鏡でもある。私たちは瞳を大切にし、瞬きにより潤いを保ち、咄嗟に目を閉じて危険を回避する。天地万物を造られた全能の主は、私たちを「ひとみのように」守られるという。

ある妊娠中の母親が医師に中絶を強く勧められた。羊水がない、胎児は羊水なしでは生きられない、万一生き延びても肺の未発達や体の奇形等で、生まれた途端に死ぬ運命だからと宣言された。ご両親は、神が生かしてくださる限りこの子の命を尊ぶ意志を固めた。数多の奇跡が重なり、無事に生まれた証君は重症の病気を次々と克服し、最近保育器を出た。退院も夢ではない。人の頭の中の不可能を越えて、神の愛の守りを証しする証君。主は確かに私たちをご自分の瞳のように守ってくださる。荒地と言え現在の世界にあって、この主を証していく者でありたい。